

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立京北第一小学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・協働して達成感・成就感を味わい、基礎基本を大切にした授業づくり ・各学年授業研究 ・ペアトーク・グループトークによる話し合い活動の充実 ・めあてと振り返りを確実に行う。	・全国学力学習状況調査・ジョイントプログラムの結果 ・児童の協働活動における変容
	家庭学習の習慣化	・学習予定表の活用 ・自主学習ノートの活用 ・「学びの手引」の活用	・お子様は、家庭学習を自分からしていますか。 ・自主学習ノートの様子
	読書の習慣化	・100冊読書の定着 ・朝読書の確実な実施	・読書は、好きですか。 ・年間100冊読書の達成状況
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・道徳教育の充実(各学級、年3回道徳・年2回学級会の授業公開) ・あいさつ、廊下歩行、掃除、給食、時間遵守等全教職員で指導 ・「ほっとデー」の取組、育成学級との交流、いじめ防止等の対策	・児童の話す・聞く態度の変容(コミュニケーション能力の育成) ・児童の学校生活での状況把握(指導の一元化) ・取組、対策の実施状況(クラスマネージメントの活用) ・行事は、お子様の力を育てるために効果的であると思われるですか。
	自他を大切に する態度の育成	・早寝・早起き・朝ごはんの奨励 ・おはようおやすみチェックの活用	・お子様は、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についていますか。
健やかな体	体力の向上 安全・健康のすすめ	・体力づくりの推進(マラソン・なわとび) ・各種記録会への積極的参加 ・外遊びの奨励	・記録会等の参加状況及び体力テストの結果 ・がんばりカードの活用 ・お子様は、体力が向上したと思われるですか。
	独自の項目	・全員研修会の実施 ・部会研究(授業公開)漢字検定、天体観望会	・全員研修会の実施 ・部会研究授業の実施回数 ・漢字検定、天体観望会の参加状況



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月28日
	評価者・組織	学校評価
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・全国学力学習状況調査の結果、国語B以外は、京都市の平均を上回っている。 ・学習に関して、できる児童、困りのある児童の二極化している傾向がみられる。	・「学習規律の確立」「めあての共有」「ふりかえり」については、全クラス意識して学習に取り組めるようになってきている。 ・自分の思いをなかなか表現できない児童がいる。	・基礎基本の学習と課題を解決するための活動のバランスを考える。 ・朝読書の時間、・帯時間を効果的に活用し、日々の積み重ねを大事にしていこう。
・家庭での学習習慣が身についているとの回答は83%	・宿題は、できるようになってきているが、宿題以外の学習ができていない。	・自主学習の提示のし方の工夫。 ・学校として、6年間の見通しをもった自主学習の
・「そう思う」「大体そう思う」が昨年度結果の68%から77%	・「100冊」を目指して、頑張る児童と読書の習慣が定着しない児童がいる。	・図書支援員とも相談しながら、読書に親しめる環境づくりをしていく。
・授業中、進んで発表していますかの問いに、「そう思う」「大体そう思う」が75%	・学校が楽しいと感じている児童がほとんどであるが、「そう思わない」との回答もみられる。	・行事や各学級など、あらゆる機会をとおして、一人一人が活躍でき、認め合える場を作る。
・学校行事は子どもたちの力を育てるものになっていますか。「そう思う」「大体そう思う」が100%	・学校のきまりについては、徹底できていない部分もある。	・児童の様子を、職員会議終了後に共通理解することで、規律ある学校生活が送れるようにする。
・「ベルが鳴る前に教室に戻る」「話を聞く姿勢」は昨年度と比較して良くなっている。	・友だちに優しく接する児童が多い。しかし、友だちに対する見方やそれぞれの立場が固定している。	・友だちとしてよいこと、よくないことをお互いが指摘し合える環境づくりを目指す。
・保護者は、「そう思う」「大体そう思う」が、82%。児童は71%。一方、できていないと感じている保護者は20%、児童は30%	・児童が「できていない」と感じているが、保護者は「できている」と考えている。基本的な生活習慣の保護者の意識の甘さが、本校の課題だと言える。	・早寝・早起き・朝ごはんが定着していない児童への個別の働きかけ(児童・保護者)が必要。
・朝マラソンが定着している。	・今年度から全校児童でグラウンドを走るという形にしたため、お互い刺激し合い走る姿が見られ、全体としての意識が高まった。	・本校では体育の研究に取り組んでいる。体育科の学習をとおして、体を動かす楽しさや友だちと励まし合い高め合うことを重視していきたい。
・小中一貫夏研修会の実施。	・中学校区4校で学習や生活の様子や規律等について交流できた。	・さらに4校の交流を深められるよう、各学年部会、プロジェクト部会を計画的に進めるようにする。



学校関係者評価	
評価日	
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・参観させていただいて、先生方の行き届いた対応に感謝しました。	・参観や学校行事にできるだけ参加していきたい。
・授業が、楽しそうでみんなで話し合う場面が多く、対話や自主的な発表、人の意見をまとめるような部分に力を入れられているのを感じた。	・学校だけでなく、保護者や地域で子どもたちを育てていくという意識をもって、学校に協力していきたい。
・先生が子どもたちとしっかり向き合っていたということが伝わって安心しました。	・「京北お話の会」による月1回の読み聞かせを全クラスで行う。
・陸上記録会や運動会では、子どもたちの一生懸命がみられる姿が見られた。	
・行事等ですれ違う時に、元気に笑顔であいさつしてくれた。子どもは大人の鑑。先生方のお見本のおかげだと感謝している。	・京北子どもフェスタでは、体験活動をとおして手作り遊びのよさを伝える。
・高学年の児童が育成学級や低学年の児童に優しく接しており、心が温まった。	・学校運営協議会のあいさつ運動、PTA主催のあいさつ運動をとおして、あいさつのできる子を育む。
・運動会のスローガン「笑顔で楽しく全力で」どおり、子どもたちの活躍する姿が見られた。	・バス通学児童、徒歩通学児童が安全に登下校できるように協力していく。
・学級PTA、PTA総会では、こどものために保護者が一丸となっている雰囲気が見えよかった。	・「ほっこり子育て(子育て交流会)」をとおして子どもの様子や、子育ての悩み事を交流する。
・小中一貫教育研修は、地域の歴史や財産を知る良い機会である	・冬季研修会では、小中一貫教育による学力向上(仮題)について講演を聞き、部会ごとにも成果と課題を話し合う。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・協働して達成感・成就感を味わい、基礎基本を大切にしたい授業づくり ・各学年授業研究 ・ベアトーク・グループトーク	・学校は学力の充実・向上に向けて積極的に取り組んでいますか。 ・管理職の巡回指導による評価
	家庭学習の習慣化	・学習予定表の活用 ・自主学習ノートの活用 ・「学びの手引」の活用	・宿題以外の勉強をしていますか ・家庭学習の習慣を身につけていますか ・自主学習ノートの様子
	読書の習慣化	・100冊読書の定着 ・朝読書の確実な実施	・読書は好きですか。 ・100冊読書の達成状況
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・道徳教育の充実(各学級、年3回道徳・年2回学級会の授業公開) ・あいさつ、廊下歩行、掃除、給食、時間遵守等全教職員で指導 ・「ほっとデー」の取組、育成学級との交流、いじめ防止等の対策	・児童の話す・聞く態度の変容(コミュニケーション力の育成) ・学校生活の状況把握 ・取組、対策の実施状況確認(クラスマネージメントの活用) ・行事は、お子様の力を育てるために効果的であると思われますか。
	自他を大切に する態度の育成	・早寝・早起き・朝ごはんの奨励 ・おはようおやすみチェックの活用	・お子様は、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についていますか。 ・おはようおやすみチェックの分析
健やかな体	体力の向上・安全・健康のすすめ	・体力づくりの推進(マラソン、なわとび) ・研究(体育科)の授業研究 ・外遊びの奨励 ・隔月の避難訓練(火災・地震・不審者など)	・がんばりカードの様子 ・校内研究での話し合い、指導助言
	独自の項目	・小中一貫教育・小小連携の推進	・全員研修会の実施 ・部会研究授業の実施 ・漢字検定、天体観望会の参加状況



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月3日
	評価者・組織	学校評価
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・保護者アンケート「学習指導について」の3項目で、どの項目も前期より10%以上向上 ・道徳・学級会の公開授業を全クラスで行い、授業力の向上につながった。	・ジョイントプログラムでは、一定の成果が表れているが、基礎基本の学力の定着、話し合い活動の充実を目指したい。	・これまでの話し合い活動をより充実させるため、ハンドサインの定着を目指す。
・「宿題以外の勉強をしている」と回答した児童はやや増加。「していない」という児童はやや減少。	・テレビの視聴時間やゲーム等の時間が依然多く、保護者の理解と協力が必要である。	・自主学習の提示のし方の工夫。 ・学校として、6年間の見通しをもった自主学習の進め方を検討していく。
・「読書は好きですか」の問いに「そう思わない」と回答した児童はやや減少。 ・全校児童100冊読書達成。	・「100冊」を目指して、頑張る児童と読書の習慣が定着しない児童がいる。	・廊下図書や空きスペースを活用して、読書に親しめる環境を作る。
・保護者アンケート「友だちを大切にしよう関係は育っているか」「思いやりの心、いじめを許さない心は育っているか」の質問に「そう思う」の回答が増加。「 ・児童アンケートの「元気にあいさつができています」と回答した児童が、前期より10%向上。	・道徳や学級活動の時間を通して、友だちの考えや思いを大切にできる気持ちを育てることができた。 ・縦割り活動や地域班など、学年関係なく仲よくする気持ちが育っている。 ・学校での約束やきまりは守れるようになってきた。	・行事や各学級など、あらゆる機会をとおして、一人一人が活躍でき、認め合える場を作る。 ・児童の様子を共通理解する機会をできる限り設定し、規律ある学校生活が送れるようにする。
・「早寝・早起き・朝ごはん」の結果、テレビやゲームの時間の約束についても前期と変わらないという結果だった。 ・「学校は健康教育や保健教育に積極的に取り組んでいますか」が「そう思う」が前期より約10%増。 ・朝のマラソン・なわとびは、全体的に活動量が増えた。	・基本的な生活習慣、テレビやゲーム等に対する保護者の意識がやや低い面がある。 ・朝マラソン(なわとび)の実施方法を変えたことで、意欲的に取り組む児童が多くなった。 ・避難訓練は、早く避難できている。行うことに課題を	・保健だよりや学校評価の結果などを知らせることで、引き続き家庭への協力を求める。 ・取り組んだことが成果として実感できるような工夫。(チャレンジタイムなど) ・外遊びの種類を増やす。 ・命を守るため、より安全について高い意識を持つ。
・小中一貫教育研修では、部会活動等とおして、4校の交流が深まったという意見が多かった。	・研修等を通して、3小学校、1中学校で課題を明確にし、学習や規律等について、方向性について話し合うことができた。	・平成32年度小中一貫校設立に向けて、さらに連携を深めていく。



学校名(京都市立京北第一小学校)

学校関係者評価	
評価日	
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・よく手を挙げて発表してうれしかった。学校生活も楽しそうで何よりです。 ・生き生きとした表情で、最後まで手を上げる姿、友だちの発言になるほどと感じている姿が印象的でした。 ・学習発表会は、子どもたちの成長ぶりが見られる素敵な発表会でした。	・4月当初は、新1年生対象の開始時間を早めての実施はよかった。来年度も続けていきたい。 ・「京北お話の会」による月1回の読み聞かせを来年度も行い、読書に親しんでもらいたい。
・相手のこと、を思いやる気持ち、子どもだけでなく、大人も大切にしていきたいと改めて感じました。	・学校運営協議会 心すこやか部会では、4校の校区を順番に回り、あいさつ運動を行う予定である。
・「自然なあいさつができません」と学校に來校された方から聞くことが増えた。	
・命を大切にすることをきちんと考える授業をしていた。ありがとうございます。	・バス通学児童、徒歩通学児童が安全に登下校できるように協力していく。
	・「ほっこり子育て(子育て交流会)」をとおして子どもの様子や、子育ての悩み事を交流する
・今年度も学校運営協議会の心すこやか、地域文化歴史、体験の3部会とも計画通りの活動ができた。	・小学校、中学校、保護者、地域が一体となった連携をこれからもすすめていきたい。

3 総括・次年度の課題

今年度、全国学力学級状況調査やジョイントプログラムで、全体的にやや向上がみられたものの、基礎基本の学力の定着、学習課題を最後までやり切ろうという意欲、自分の思いや考えを表現することなどには課題がある。児童が主体的に学習に取り組めるよう、授業では、グループ活動やハンドサインを使った授業をさらに進めるなど、話し合い活動の充実に向けてこれまでの取組をさらに深めていきたい。また、「めあて」や「ふりかえり」を大事にした丁寧なノート作りの指導を行い、そこから学習全般に最後まで粘り強く取り組む姿勢へとつなげていきたい。基礎基本の学力の定着には、授業内容の充実や帯時間を活用した取組とともに、家庭学習の習慣化が必要である。特に、本校では家庭学習が課題となっており、自主学習の進め方を丁寧かつ継続的に指導していくことが大切である。担任に任せるのではなく、6年間さらには中学を視野に入れた9年間の家庭学習の在り方についても検討していかなければならない。本校の目指す子ども像である「かがやく子」に近づけるため、常に児童の様子を共通理解しながら全教職員が教育目標、研究テーマを意識しながら教育活動に取組んでいきたい。また、保護者や地域の方にも取組を理解していただき、家庭での過ごし方、生活習慣等について協力や支援が得られるように学校運営にあたっていきたい。